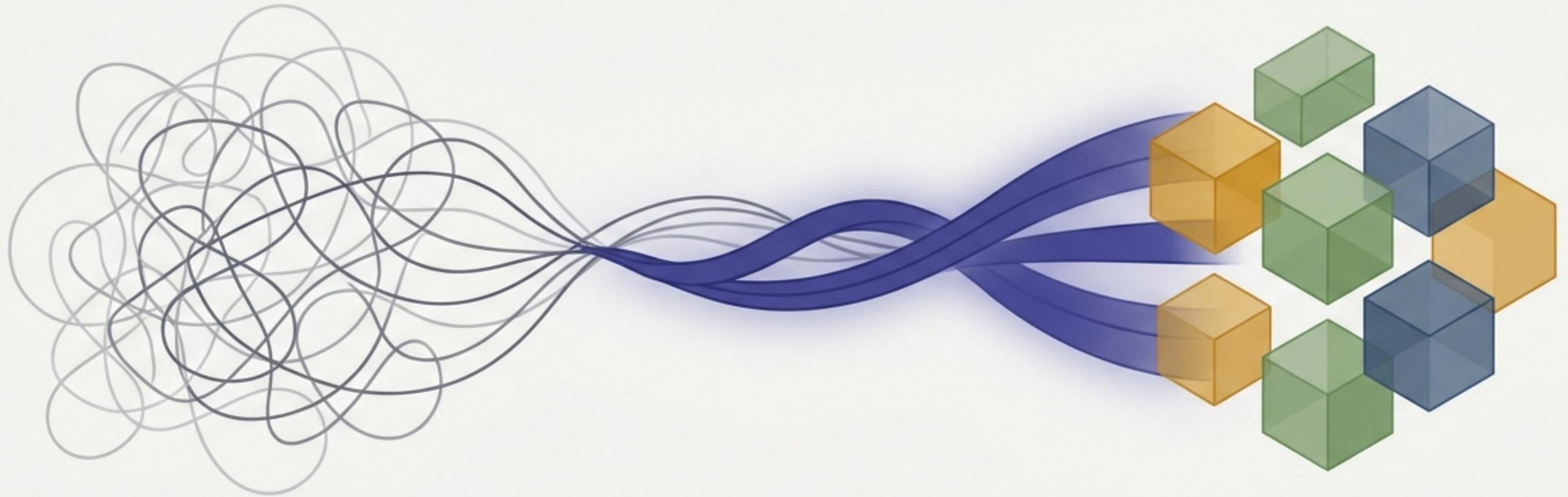


AIワークフローという、新しい仕事の形



日常業務を、AIが自律的に動かす仕組み。

「手作業」が、まだビジネスの中心にありますか？



- ✓ FAXで届く注文書や請求書の処理
- ✓ 紙の情報を基幹システムへ手で転記する作業
- ✓ 単純だが時間のかかる、定型的な業務の数々



これらの作業は、依然として多くの現場で負担となっています。

解決策は「AIワークフロー」：3つの要素を組み合わせた自動化の仕組み



私の定義するAIワークフローとは、以下の3つを組み合わせ、実際の日常の仕事を自動化するためのものです。

1. 生成AIで作成されたアプリ
(Apps built by AI)
2. 生成AIで作成されたスクリプト
(Scripts built by AI)
3. アプリやスクリプトからの
生成AIモデル呼び出し
(Calling AI Models)

AIワークフローを構成する3つの力



1. AI製アプリ (AI-Built Apps)

生成AIで作成されたWindowsデスクトップアプリやWEBアプリ。人が操作するインターフェースを提供します。



2. AI製スクリプト (AI-Built Scripts)

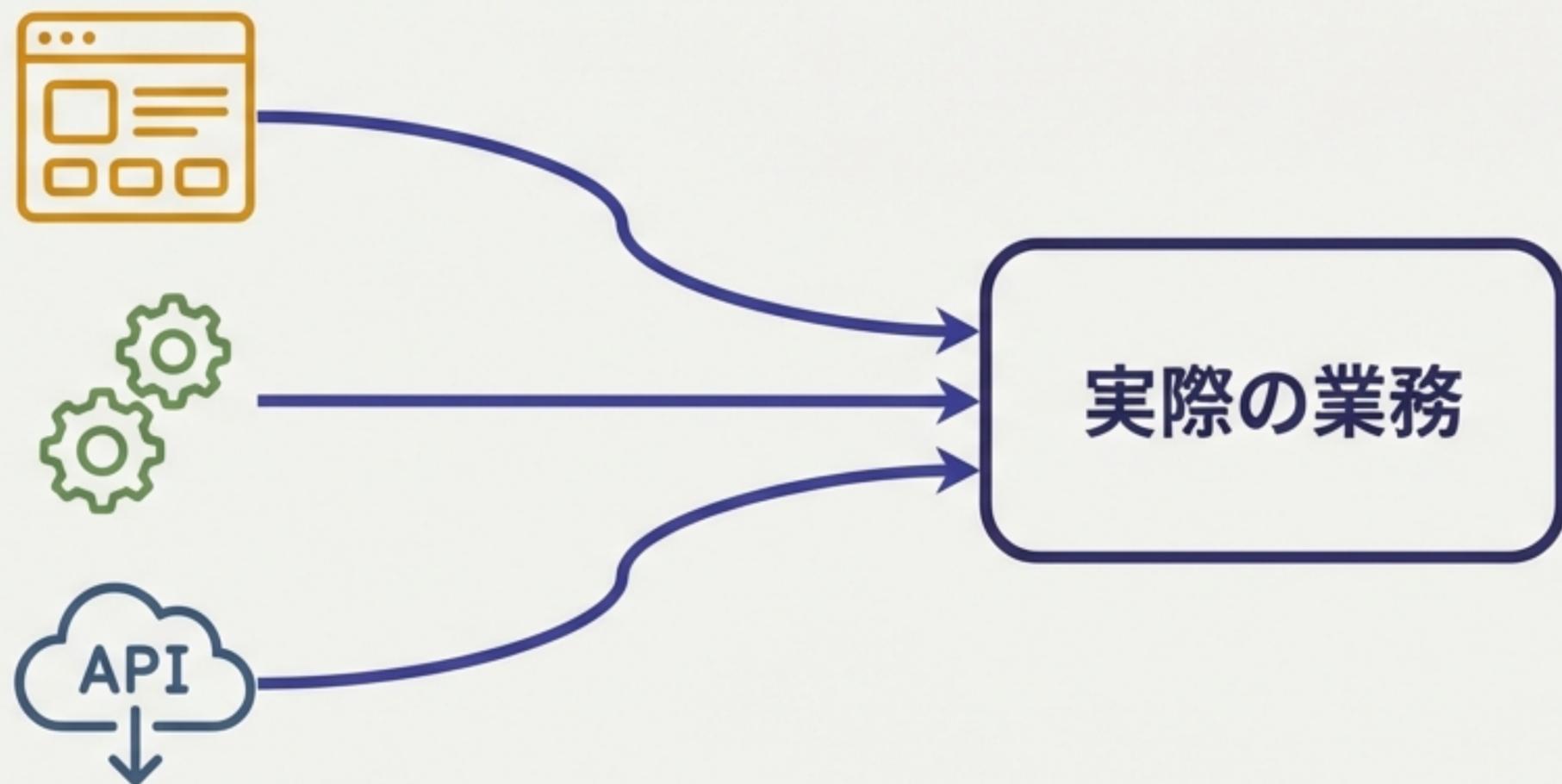
RPAのようにアプリ操作やデータ転記を自動実行するプログラム。バックグラウンドで黙々とタスクをこなします。



3. AIモデルの呼び出し (Calling AI Models)

スクリプト等から **Gemini CLI** や **LM Studio** 上のモデルを呼び出し、文書読取りなどの知的作業を実行させます。

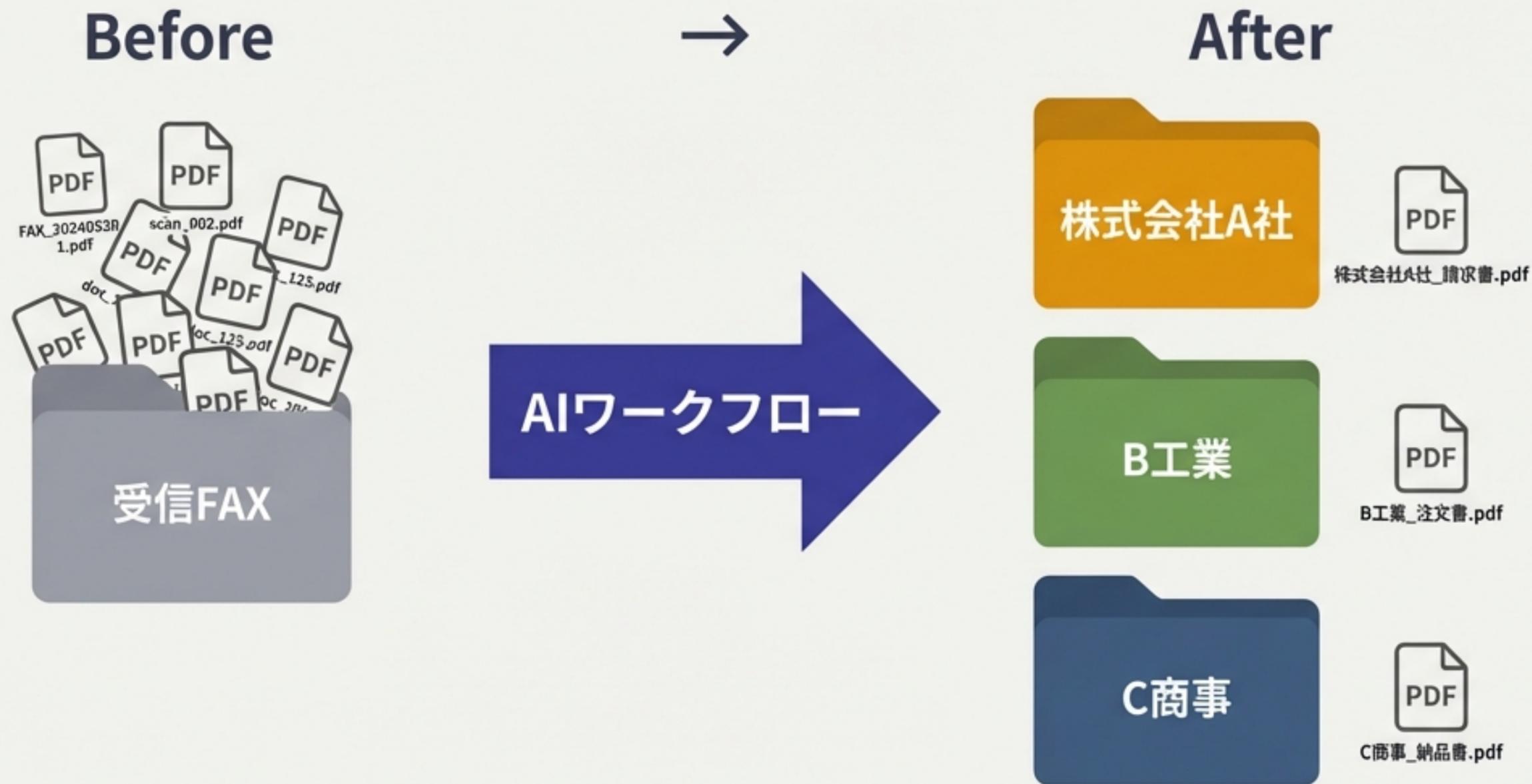
では、AIワークフローは具体的にどう機能するのか？



2つの具体的な事例を通して、AIワークフローの威力をご紹介します。

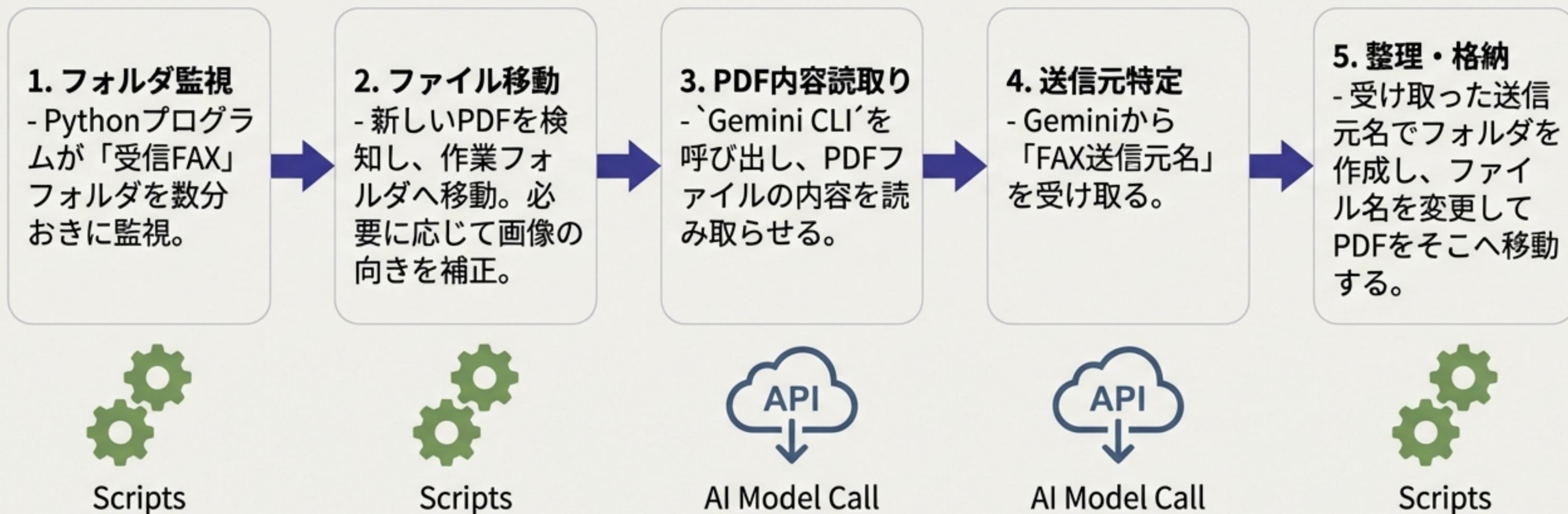
- 事例1：受信FAXの自動整理
- 事例2：FAXデータから基幹システムへの自動入力

事例1：受信FAXの自動整理とファイリング



課題*: 毎日多数届くFAXのPDF。誰が、どの会社から送ってきたのかを手作業で確認し、フォルダ分けとリネームを行う必要がある。

AIワークフローによる自動化プロセス（事例1）



効果: 人手を介さず、FAXが自動で送信元ごとに整理される。

事例 2 : FAXデータから基幹システムへの自動入力

Before



AIワークフロー



After



課題:** FAXに記載された注文情報（品番、数量、納期など）を、間違いなく迅速に社内の基幹システムへ手入力する必要がある。入力ミスや作業遅延のリスクが常に存在する。

AIワークフローによる自動化プロセス（事例2）

1. **ファイル検知** - 生成AI製Pythonプログラムが、所定フォルダ内の新規PDFを自動で感知。

2. **情報抽出** - `Gemini CLI`を呼び出し、PDFから必要な情報（商品名、数量など）を読み取り、抽出する。

3. **データ保存** - 抽出した結果を、構造化データとしてExcelファイルに保存する。

4. **システム入力** - 別のPythonプログラムが起動し、Excelファイル内の情報を読み取る。

5. **自動転記** - 社内の基幹システムの入力画面に、読み取った情報を自動で転記する。



効果: FAXデータの基幹システムへの入力負荷が劇的に軽減される。

AIワークフローとは、日常業務を自動化する「仕組み」そのもの



このように、

1. **AI製アプリ**
2. **AI製スクリプト**
3. **AIモデルの呼び出し**

これらを柔軟に組み合わせ、生成AIを活用して日常の仕事を自動化したものを「AIワークフロー」と呼んでいます。

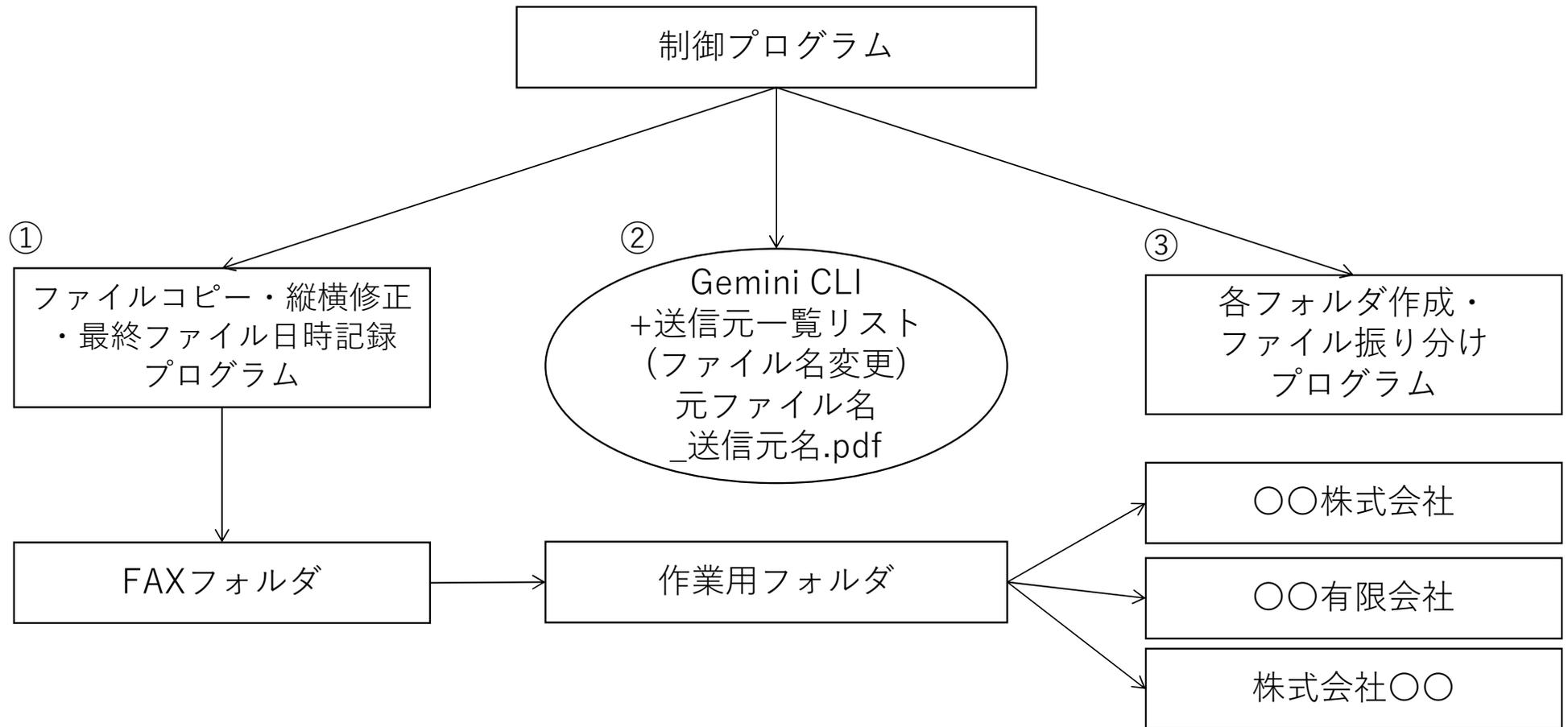
あなたの会社の「あの面倒な作業」も、 AIワークフローで自動化できる。



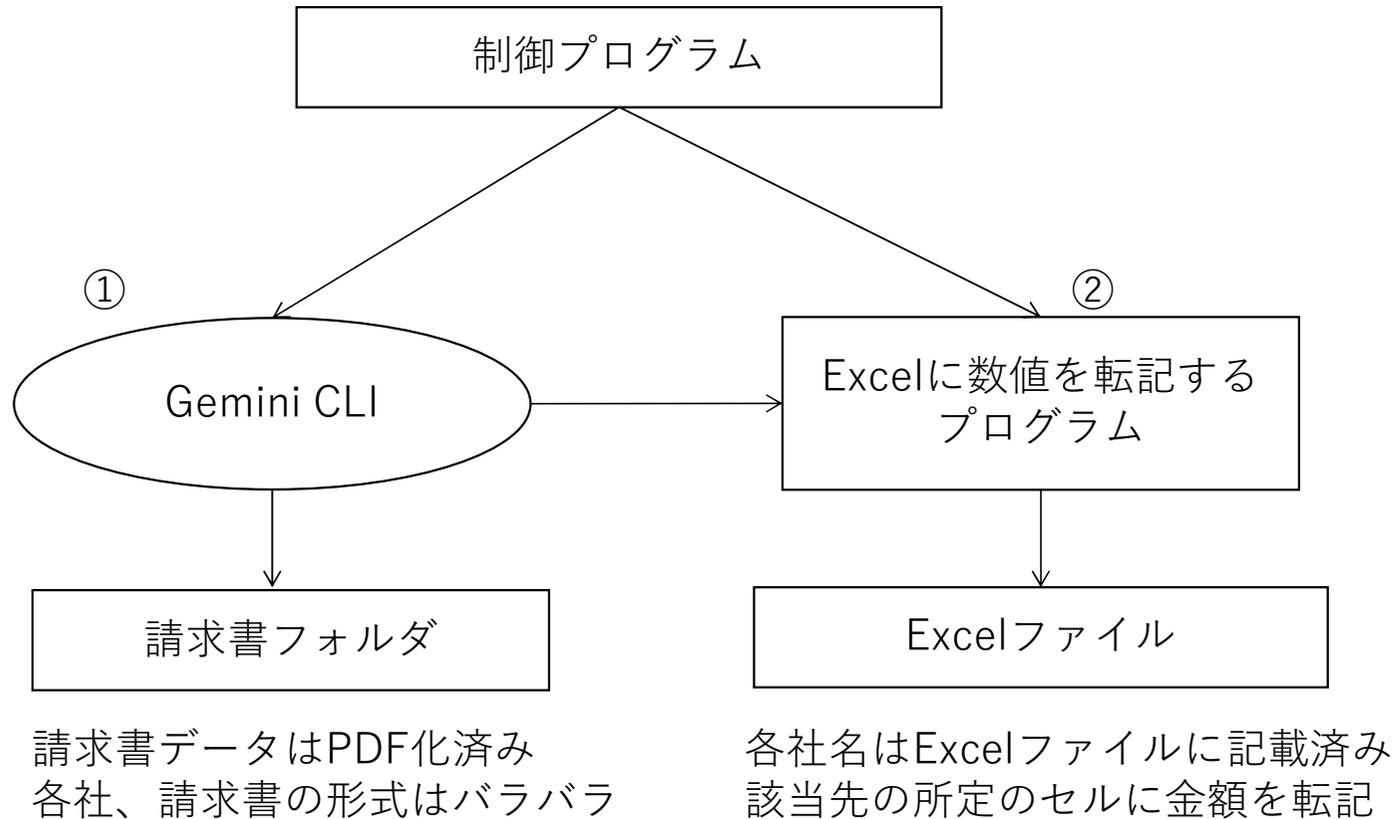
- 毎日、同じ手順を繰り返している作業はありませんか？
- 複数のアプリケーションをまたいでデータを転記する業務はありませんか？
- 「読解」と「入力」がボトルネックになっているプロセスはありませんか？

**AIワークフローは、特定のツールではありません。
仕事のあり方を変える、新しい「考え方」です。**

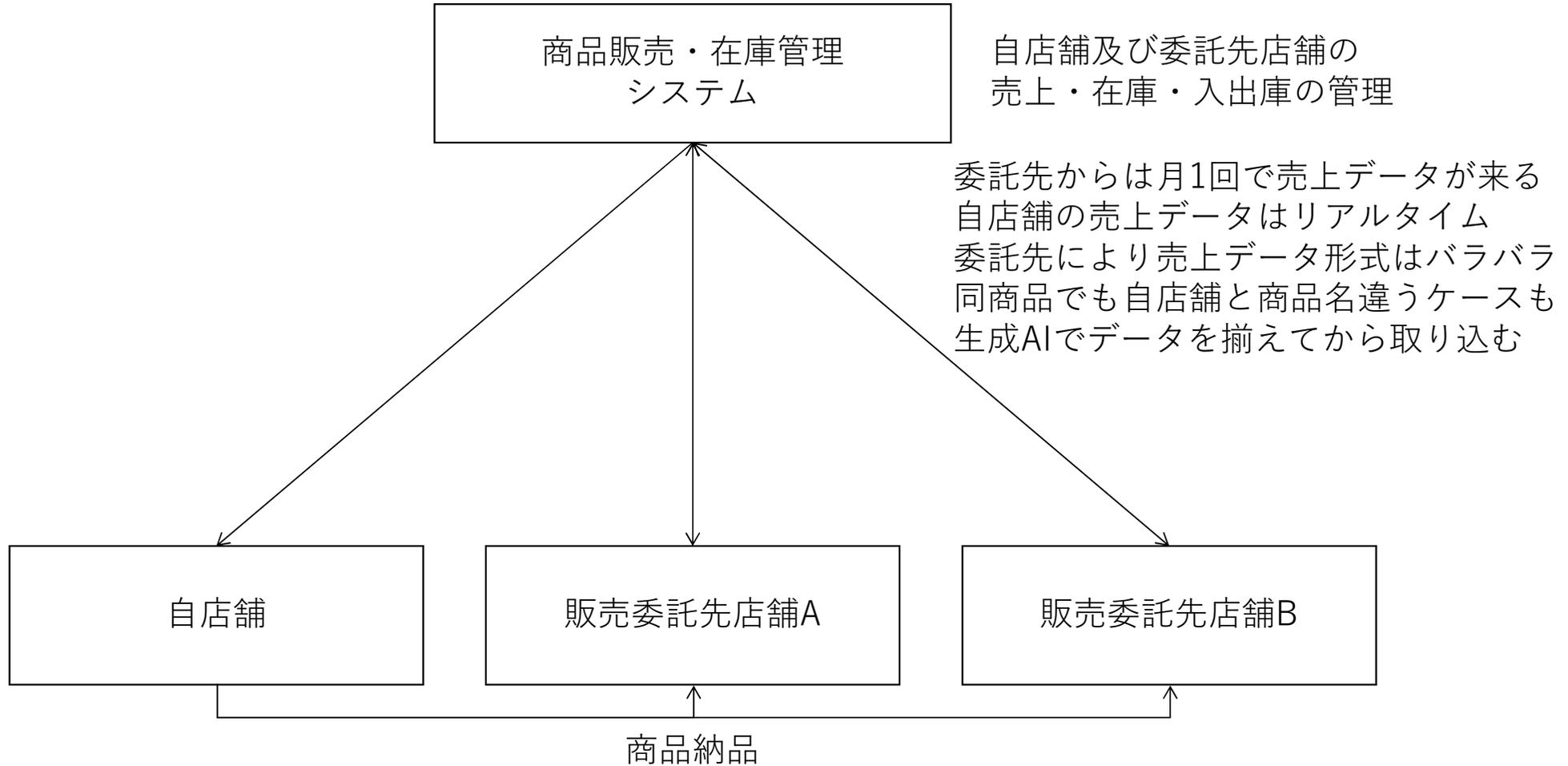
事例1. FAX送信元別に自動で仕分け



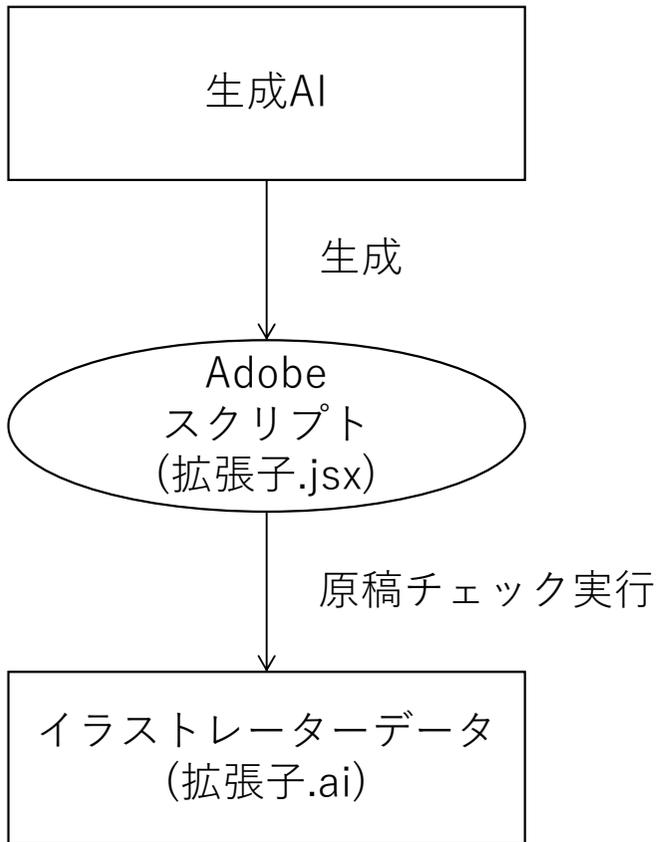
事例2. 請求書から請求金額を取得しExcelにまとめる



事例3. 商品販売・在庫管理システムの構築



事例4. Adobeイラストレータのデータを自動チェック



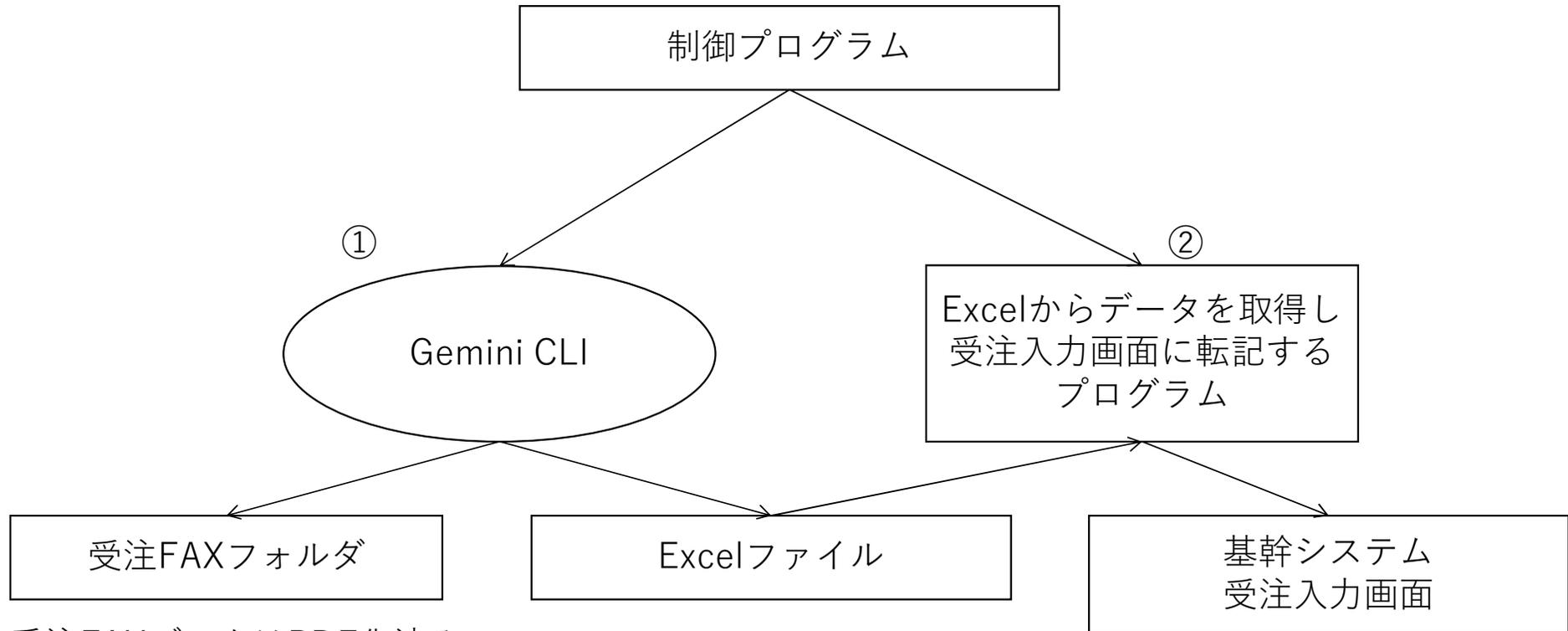
印刷会社での事例

客先から送られてくるAdobeイラストレーターのデータをAdobeのスクリプトで自動チェック。

スクリプトはJavaScriptにAdobe製品独自の拡張機能を付加したもの(拡張子.jsx)。

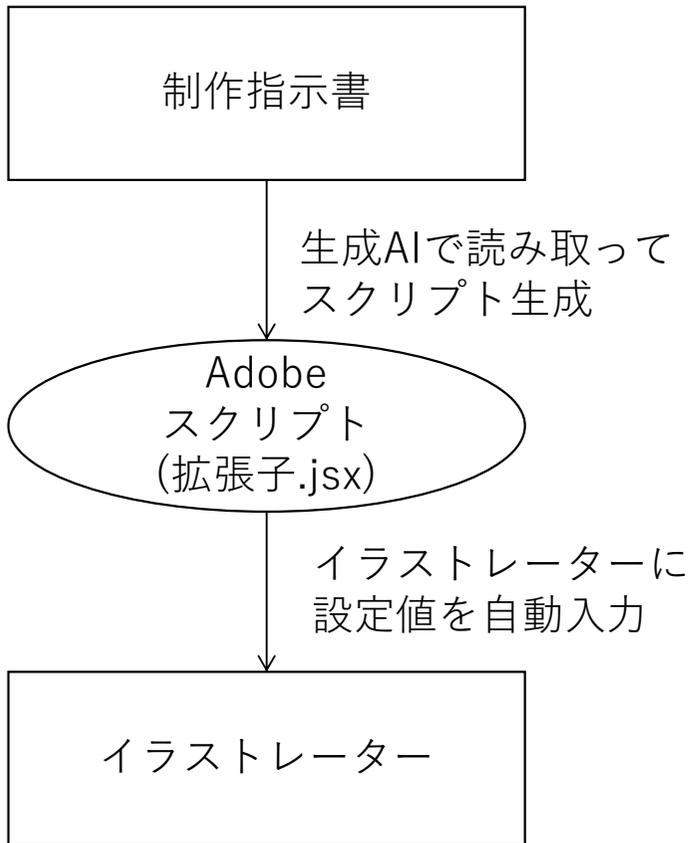
チェックしたい内容を生成AIに伝えて、スクリプトを生成。

事例5. 受注FAXデータを基幹システムに自動転記



受注FAXデータはPDF化済み
各社、発注書の形式はバラバラ

事例6. 制作指示書の数値をイラストレーターに自動転記



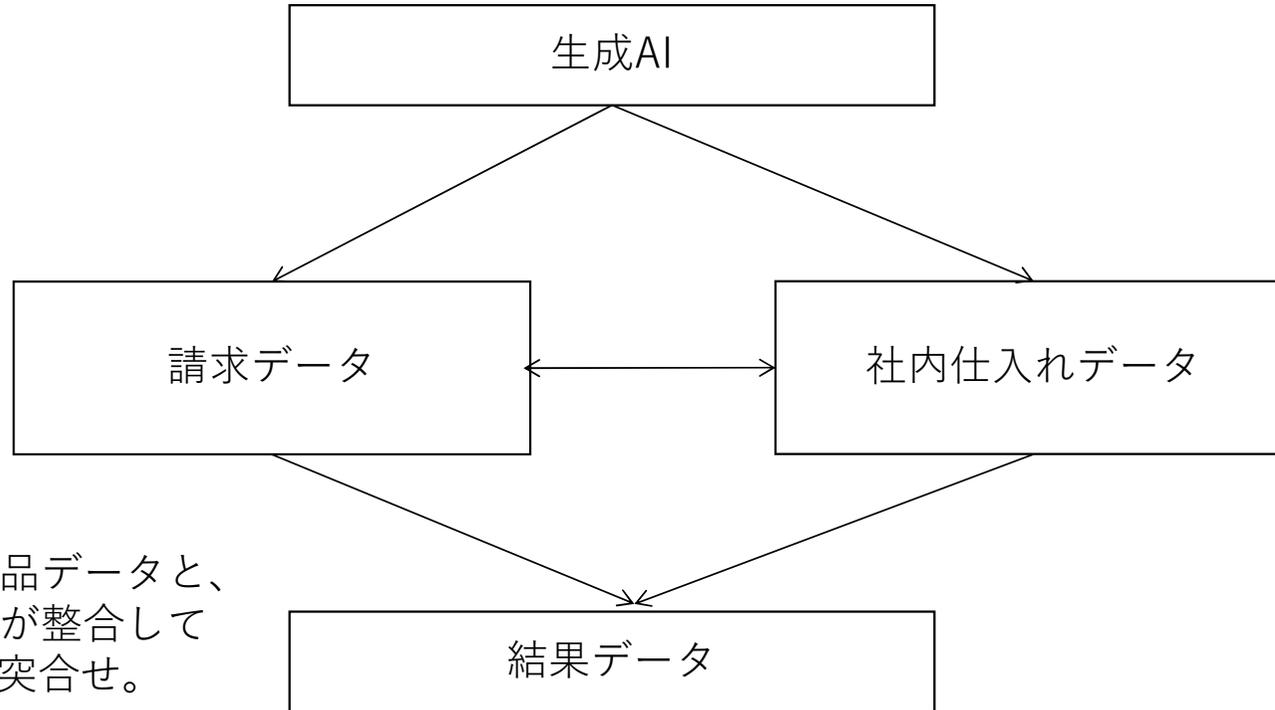
印刷会社での事例

制作指示書に書かれている原稿データの設定数値を、自動でAdobeイラストレーターに設定する。

制作指示書を生成AIに読み込ませ、必要な値をイラストレーターに設定するスクリプトを生成する。

スクリプトはJavaScriptにAdobe製品独自の拡張機能を付加したもの(拡張子.jsx)。

事例7. 請求書と社内仕入れ記録を自動で突合せ



仕入れ元からの仕入れ商品データと、社内の仕入れ商品データが整合しているか、生成AIを使って突合せ。

- ・商品ID等が無い
 - ・商品名が合致していない
 - ・仕入れの日付も必ずしも合致していない
- とのことで苦戦しつつも奮闘中。

事例8. ネットモールと自社システムをつなぐ

